

健康診査を受けましょう

- ①自分の健康は自分で守りましょう！
健康づくりの主役は、あなた自身です。自分の健康を守るためにも定期的に健診を受けることが大切です。
- ②健康診査は生活習慣病早期発見のチャンスです！
生活習慣病は、初期の段階では、ほとんど自覚症状がありませんが、早期に発見して芽をつみとるために健診を受けることが大切です。
- ③健診の結果を生かして生活習慣の改善をしましょう！
健診で少しでも異常が見つかったら、すぐに医師の指導を受け、生活習慣の改善に取り組み、より健康な生活につなげることが大切です。



問 健康長寿課 (☎内線143)

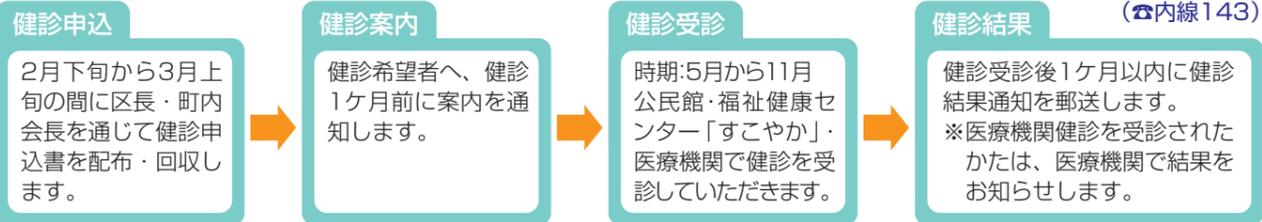
がん検診で、毎年がんが発見されています！

市では、胃・大腸・子宮・乳・肺の5種類のがん検診を実施しています。毎年、この検診で、がんが3～10人前後発見されています。胃がんや大腸がんは、年齢的には、50歳以降から多く発見され、子宮・乳がんは、30～40歳から発見されています。がん検診は、みなさんが受診しやすくなるよう年々改善されています。胃がん検診では、以前に比べてバリウムも飲みやすいように工夫されています。大腸がん検診では、便の容器を提出するだけで、検査ができるようになっています。また、子宮がん検診は、検診車内において短時間で検診ができ、乳がん検診では、マンモグラフィーとセットで受けられるようになり、小さながんも発見しやすくなりました。怖いという先入観を捨てて、定期的に受けるように心がけましょう。

勝山市のがん検診によるがん発見数 (人)

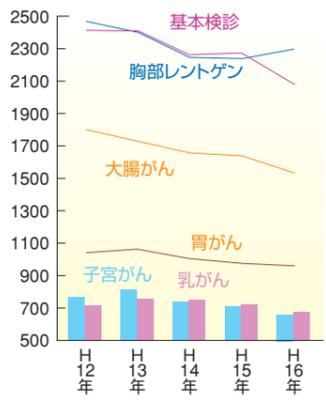
検診年度	胃	大腸	子宮	乳	肺
H12	3	-	1	2	-
H13	2	3	-	2	1
H14	1	-	1	3	1
H15	2	3	-	1	4
H16	-	2	-	1	-

健診申込から受診までの流れ



健診受診者数が減ってきています

平成12年からの各健診受診者数の推移をみると、どの健診も受診者数が減ってきています。健診は、市で行う健診のほか職場での健診、人間ドックなどさまざまな健診があります。健診内容にも違いがありますので、ご自身で確認し定期的にからだ全体をチェックできるように健診を受けましょう。特に、自営業者、パート従事者など健診の受診機会がないかたは、市の健診を受診されることをお勧めします。



健診の大切さに思う

村岡町保健育成会長 松村信子 (長山町)



物質的豊かさを手にした今日、私たちは心からの幸せを感じているだろうか？ 不慣れた生活から逃れて、もっと自分の時間がほしいと望んでいたはずなのに、いつのまにか私たちは、厳しい競争の中で自分を見失い、ストレスの坩堝でもがいている。 幸せてなんだろうと、考えるとき「心のゆとり」を感じられるときに、それを味わうことができるように思う。そして、心にゆとりを持てるには、身体が健康であることが一番の条件ではないでしょうか。 家族にとっても、仕事場にあっても、また地域での活動の場でも、身体が健康でさえあれば、心にゆとりを持って人と交わるように思います。そこから更にいるんな心のエネルギーを吸収しながら、また新しい喜びが生まれてくるのではないのでしょうか。 心と身体の健康を支えるために、「健診」の大切さをできるだけ多くの人たちにお勧めしたいと思っております。

松村さんは、このたび、「平成17年度公衆衛生事業功労者 厚生労働大臣表彰」を受賞されました。



みなさん、はじめまして！ これからがんばります！ シンボルマークが鹿谷町をPR

鹿谷町まちづくり協議会が11月から製作に取り組んできたシンボルマークの模型がこのたび完成し、1月15日に、点灯式が設置場所のえちぜん鉄道発坂駅近くで行われました。

このシンボルマークは、同協会が2年前に公募した中で採用された炎とシカをイメージした作品。今回は、このマークを立体模型に仕上げイルミネーションを施し、電車利用者や行き交う車に向けて鹿谷町をアピールしようというものです。

点灯式では住民が見守る中、赤や青の色鮮やかなイルミネーションが模型全体に浮かび上がると、子どもたちからも歓声が沸き起こりました。このシンボルマーク模型は、2月11日まで設置されています。

また、これまでにホームページなどを通じてマークの愛称を募集したところ、北海道や九州など全国各地からたくさんの方の「名付け」の応募があったそうです。愛称は、2月12日に行われる「鹿谷町雪まつり」で発表されるということで、今後このシンボルマークは、鹿谷町のイメージキャラクターとしてまちづくりに活躍していきます。



鹿谷町をアピールするシンボルマーク

ごみ処理施設・一般廃棄物最終処分場の愛称決定！ “ビュークリーンおくえつ”（ごみ処理施設） “エコバレー”（最終処分場）

今年3月に完成するごみ処理施設（建設地：大野市南新在家）と一般廃棄物最終処分場（建設地：勝山市平泉寺町岩ヶ野）の愛称が決定しました。

採用された愛称は、横井直樹さん（北郷町坂東島）考案の『ビュークリーンおくえつ』と、藤澤あおいさん（野向町竜谷）考案の『エコバレー』です。



愛称が採用された藤澤さん（左）と横井さん（右）

これは、施設の建設を進める大野・勝山地区広域行政事務組合が愛称を募集し、応募のあった32点の中から親しみやすさや呼びやすさを基準に審査されたものです。ご応募いただいたみなさん、ありがとうございました。

○ビュークリーンおくえつ

勝山市と大野市のごみを一括で処理する施設です。可燃ごみを処理する焼却施設と、資源ごみなどを処理するリサイクルプラザで構成され、ごみ処理の仕組みを学習できる体験施設を備えています。

○エコバレー

「ビュークリーンおくえつ」から出る灰や陶磁器の鉄くずなどを埋め立て処分する施設です。

問 大野・勝山地区広域行政事務組合 (☎66-6690)

寒い冬に、 温かいホタルのともしび まちづくり・むろこの会が 「冬の蛍回廊」を企画

ホタルが飛び交う里づくり活動を行っている「まちづくり・むろこの会」は、1月28日の夜、道路わきの雪壁にろうそくを並べた「冬の蛍回廊」作りを企画し、寒い冬に舞うホタルのともしびを演出しました。

同会は、ホタルを通じて環境保全を考え、次世代育成につなげていく活動などを行っています。今回の企画は、日ごろはやかましい雪を楽しもうというもので、この日は地区の児童と保護者ら約70名が参加。

温泉センター水芭蕉から雁が原スキー場まで約1.5キロの間の除雪で道路両脇にうすたかく積み上げられた雪の壁に穴を開け、その中に廃油を使って作ったろうそくなど約2千本を一本一本立てていきました。日が暮れ始めるとともに地元の子どもの手でろうそく一本ずつに火が灯されると幻想的な「光」の回廊が出来上がり、ホタルが灯すような淡い光が寒い冬の夜に行き交う車や道行く人々を温かく包み込みました。



「蛍回廊」 辺りをげんそう的に包む

廃油を使ってのろうそく作り